

ボランティアのみなさん、ありがとうございます。

宮崎 航

「刈谷田川が決壊した」という話を、給食後、教室で聞きました。その時ぼくは、自分の家が刈谷田川の近くなので、家族や家が大丈夫なのかと心配になりました。

その日は、学校の周りの道路が全部水ひたしになり、家に帰ることができなくて学校に泊まりました。八時ごろにおにぎりが配給されました。なにもつけていないおにぎりでした。たか、とてもおいしく感じました。

夜は、水害にあっ。たという実感がわかなかつたため、教室でぐっすり寝ました。

次の日、友達の家の人や車の車に乗せてもらい避難所の文化センターで家族に会いました。なんだかほっとしました。ぼくは、家族と一緒に家まで歩きました。町中が泥だらけで、歩くのは大変でした。途中で保育所のプールが、プールゴと動いて道をふさいでいたので

ひっくりしました。

自分の家を見た時「お化け屋敷か」と、思
うくらい入りづらか。たです。いざ入って見
ると、床は泥まみれで、和室の畳がめくれ上
がっていたり、冷蔵庫が倒れていたりして、
ものすごいくさいにおいがありました。その日
から町全体で復旧作業が始まり、ぼくの家も
家族で泥水をくみ上げました。しかし、泥水
は、くんでもくんでも無くならず、いつ元通
りになるか、めどが立ちませんでした。

くさくてつらい仕事に父や母をはじめ家中
がつかれきっていました。

ぼくも家にいつ住めるのが不安でした。

そんな時、ボランティアの人が来てくれ
ました。ボランティアの人達にはげまされ、
元気が出ました。ぼくも泥まみれの物を外に
出しました。水害の被害を受けてから、多く
のボランティアの人に助けられました。あり
かとうございしました。ぼくもいつかボランテ
ィアとして働いてみたいと思います。